

平成 31 年 1 月 15 日

第 1 回定例会
議事録

文京区教育委員会

文京区教育委員会議事録

第 1 号

平成 31 年 第1回 定例会

日時：平成 31 年 1 月 15 日（火）午後 2 時

場所：教育委員会室

「出席」	教 育 長	佐 藤 正 子
	教育長職務代理者	清 水 俊 明
	委 員	田 嶋 幸 三
	委 員	坪 井 節 子

「説明のために出席した教育局職員」	教育推進部長	山 崎 克 己
	教育総務課長	吉 田 雄 大
	学 務 課 長	熱 田 直 道
	教育推進部副参事	川 西 宏 幸
	教育指導課長	松 原 修
	児童青少年課長	中 島 一 浩
	教育センター所長	矢 島 孝 幸
	真砂中央図書館長	川 崎 慎一郎

「書記」	庶 務 係 長	木 内 実三男
	庶 務 係 主 事	大 塚 功

平成31年

第1回教育委員会定例会

平成31年1月15日（火）午後2時

場 所 教育委員会室

議事録署名人 清水俊明委員

第1 議案の審議

第1号議案 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

第2 報告事項

- (1) 叙勲等表彰受章（賞）者について (資料第1号)
- (2) 文京区立図書館改修等に伴う機能向上検討委員会の設置について (資料第2号)

第3 その他の事項

「開 会」

(14 : 03)

○佐藤教育長 それでは、おそろいになりましたので、平成 31 年第 1 回の教育委員会定例会を始めたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

まず、出席状況の確認をさせていただきます。小川委員が本日、欠席でございます。そのほかの委員は出席いただいております。理事者も全員出席しております。

本日の議事録署名人ですが、清水委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(はい)

第 1 議案の審議

第 1 号議案 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

○佐藤教育長 それでは、早速、議事日程に入ります。まず第 1 「議案の審議」です。本日は 1 件でございます。

第 1 号議案「教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について」です。この件について、説明を教育推進部長お願いします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第 1 号議案、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価につきまして、提案理由のご説明を申し上げます。

最初に、私から概略をご説明し、後ほど教育総務課長から点検及び評価の詳細についてご説明申し上げます。

本案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定に基づき、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価を取りまとめるものでございます。

1 ページをご覧ください。こちらに点検及び評価の実施要領を記載してございます。

平成 30 年度の点検及び評価ということで、対象となりますのは平成 29 年度中の施策となっております。昨年度に引き続き、文京区教育振興基本計画に位置づけられた 3 つの視点及び 4 つの重点課題に加え、図書館行政の 8 項目が点検・評価の対象となっております。

5 ページから 17 ページまでは、3 つの視点の各項目から主要施策を抽出し、それに対応する事業の取組状況、成果・実績等、課題、今後の対応・方向性、学識経験者の意見を踏まえた総合評価をまとめて、表形式で記載しております。

18 ページには、4 つの重点課題についての総合評価を掲載しております。

19 ページから 25 ページまでは、学識経験者からいただいたご意見を掲載しております。ご意見をいただいた学識経験者は、東京家政大学家政学部児童教育学科教授の家田晴行氏及び東京大学大学院教育学研究科准教授の北村友人氏のお二方でございます。

26 ページ以降は、参考資料といたしまして、教育目標と平成 29 年度の主要施策を添付してございます。

なお、この点検及び評価の報告書は、教育委員会決定後、区議会へ提出し、公表する予定でございます。

それでは、各項目の点検及び評価のまとめについて教育総務課長からご説明いたします。

よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○教育総務課長 それでは、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について、ご説明をさせていただきます。

本報告書は、先ほど部長からありましたとおり、教育振興基本計画に基づき実施された主要施策及び図書館行政について、学識経験者の知見を活用しながら、教育委員会で点検・評価を行ったものでございます。

まず、3 ページから 4 ページをご覧ください。教育振興基本計画の 3 つの視点とその視点に基づく小項目を記載してございます。小項目 1 つにつき 1 つの施策を選定し、点検・評価の対象としているところでございます。

また、4 ページの中段から重点課題を記載しておりますが、これは計画の期間内に教育委員会が重点的に取り組む課題として、各視点に含まれる施策を横断的に整理したものでございます。こちらにつきましても、学識経験者からのご意見をいただき、それを踏まえて総合評価を行っているところでございます。

なお、教育振興基本計画の計画外の図書館につきましても、項目を設定し、点検・評価を実施しております。

次に、5 ページから 17 ページにわたって個別の評価表を記載しております。本年につきましては、13 の施策について評価をいたしました。

5 ページをお開きください。まず、評価表のつくりについてでございます。上段におきまして、教育振興基本計画の視点と、該当する方向性、担当の所管を記載しております。

評価の対象とした 29 年度の主要施策と該当する重点課題、主要施策を推進するための具体的な取組状況及び成果・実績の順に記載をしているところでございます。

評価表の中段以降は、各担当所管による1次評価となるところで、課題と今後の方向性、該当事業の29年度予算額と昨年度ご指摘いただきました決算額について記載をしているところでございます。

下段の総合評価は、各担当所管において、学識経験者のご意見を踏まえた上で総括的な自己評価を行ったものでございます。

例といたしまして、5ページのシートについてご説明いたします。

視点1「学校教育における知・徳・体のバランスのとれた力の育成」の(1)「確かな学力の定着」に位置づけられた主要施策でございます。こちらにつきましては、区内大学等の高度な専門性を活用した科学教室や、最先端の研究成果、学術研究に触れる機会を通して、児童・生徒の自然科学に対する豊かな感性や創造性、多角的な見方や考え方を育むというものでございます。

総合評価といたしましては、応募状況や参加者のアンケート結果から、自然科学の楽しさを体験し、興味・関心を高め、科学的なものの見方や考え方を育むことに寄与できている。継続して科学的探究に挑めるように、今後は夏休みの自由研究支援等につなげていく。また、内容については、自然災害に関する講座など、社会的な視点を取り入れたテーマも設定していく。今後、大学の研究室や教室で講義や実験が行えるよう、大学との連携を推進していくというところでございます。

6ページ以降、同じようなつくりで記載されておりますので、こちらはご覧いただければと存じます。

18ページをご覧ください。こちらは重点課題の進捗状況に関する総合評価でございます。

まず、重点課題①「豊富な文化・教育資源を活かした教育活動の展開」につきましては、今後も豊富な文化・教育資源を生かすとともに、地域や区内教育機関にとっても有用な事業となるよう、各事業を推進していくというものでございます。

同じく重点課題②は、「グローバル化社会を見据えた教育」でございます。こちらにつきましては学識経験者が指摘するようなアジア圏を含めた国際理解教育の推進を検討課題としながら、今後も語力向上推進事業を着実に実施し、外国語を用いたコミュニケーション能力や異なる言語、習慣、文化等を尊重して、ともに生きる心を育成していくというものでございます。

重点課題③は、「すべての子どもたちへの適切な教育機会の保障」でございます。こちらにつきましては、今後もアウトリーチ型の専門的発達支援の事業を効果的、効率的に進めていくとともに、インクルーシブ教育システム構築事業を計画的に実施し、学びの場を充実させていくというものでございます。

最後に、重点課題の④は、「教員のサポート体制の充実」でございます。こちらにつきましては、教員の働き方改革が求められている中、行政によるサポートが今まで以上に必要とされている。今後も、校務支援システムの活用について、教員への支援体制を強化するなどしながら、教員の負担軽減を図っていくというものでございます。

なお、19 ページから 25 ページにつきましては、実際に学識経験者からいただきましたご意見を掲載してございます。

また、26 ページから 29 ページまでは、教育委員会の教育目標及び主要施策を掲載しております。

説明は以上でございます。

○佐藤教育長 ただいま説明が終わりましたけれども、この説明につきまして、ご質問、ご意見等ございましたら、お願いいたします。

○坪井委員 今までも伺っているのですが、確認ですが、これは 29 年度の施策に対する評価ですよね。この評価で出てきた課題は、施策的には 30 年度には間に合わないんですよね。これが生かされるのは、31 年度の施策をするときに生かされるということなんですか。

○教育総務課長 そういう流れになります。

○坪井委員 教育委員会として、31 年度のはこれから作成されるわけですか。

○佐藤教育長 予算とか新しい施策については、今既に要求して査定を受けてという段階になっています。反映の仕方について、説明をお願いします。

○教育総務課長 こういった点検・評価については、教育委員会には本日かけさせていただいてるところでございますけれども、学識経験者からのご意見とか、あるいはこの内容につきましては、本日よりも前に各所管のほうに紹介してございますので、そういった点も生かしながら、反映できるものは反映していくという形で、31 年度の施策においても、一定程度、当然のことながら反映をしていくというところでございます。

○佐藤教育長 30 年 9 月時点で、事業説明、ヒアリングが終了して、学識経験者の方々からご意見をいただいてという流れになりますから、その時点で、受けたご指摘等で反映できるもの、あるいは

反映しなくちゃいけないと思ったものは 31 年度の中ということになります。ただ、まとめてのご報告はどうしてもこのタイミングになるということですね。

○清水委員 実績値というのが示されていますけれども、この実績値が妥当なものだったのか、あるいは予定どおりではなかったのか、その辺の評価がこれだとわからないんですけれども、その辺に関してはいかがでしょうか。

○教育総務課長 あくまでも点検・評価シートのつくりとしましては、成果・実績等とか、実績値というところで、こういった形でやっておりますけれども、教育だけではなくて、区長部局等がやっている事務事業評価とか、そういったさまざまのところにつきましては、施策事業について、そういった実績等に基づいて行っております。ここではそういった形での評価が詳細にはあらわれておりませんが、そういったところで当然やっていて、P D C Aサイクルをきかせて、次の施策に活かしていくというところは、区全体としてできていると認識しております。

○清水委員 わかりました。

予算と決算が出ていますが、予算と決算で大きな差異が出たものは今回あったんですか。

○教育総務課長 議会の予算審査特別委員会とか決算審査特別委員会でも、我々、不用額という言い方をしていますが、予算と決算の差が大きく出たところについては質問が出ます。実績値ということで、私ども職員のほうも、より効果的、効率的な事業執行について、不断に励んでやっておりますので、そういったところで乖離が出ているものがほとんどでございます。そういった意味では、政策的なところで何か問題等がある、そういった不用額が過分に出了ところについては、そんなにはないのではないかと認識しておるところでございます。

○清水委員 先ほどP D C Aサイクルの話が出ましたけれども、今回のCは自己評価ということになると思います。ただ、学識経験者のご意見もいただいている、そのところは他からの評価も入っているかと思いますが、その後のアクションに関しては、具体的な内容がこれではいまひとつ出てきてないような気がします。それも今後別の部署でということなんでしょうか。

○教育総務課長 このシートでは、今、職務代理がおっしゃるようなところがなかなか見えづらい点ではございますけれど、一例を申し上げますと、教育総務課でやっている家庭教育講座につきましては、内容は非常にいいんだけど、民間のように、例えば親御さんたちの心を引くようなキャッチーなタイトルになってない部分があるとかそういった細かい視点のご指摘をいただきました。そういったところについては、これは一例でございますが、私ども教育総務課としても、「そうだね」ということで、担当者としっかりと共有して、次の展開に持っていこうという形にして、教育の各課長初め職員が、学識経験者の貴重なご意見を活かしていきたいと考えている次第でございます。

○田嶋委員 英語能力を上げていきたいということは常々、この委員会でも話をしてきたことで、それが実行されているということに対して、評価したいと思います。ALT等の配置等もしっかりやったださっていると思います。

6 ページに「英検受験料の補助」と書いてありますが、この自己負担は幾らぐらいなのでしょう
か。

○教育指導課長 区が全額の負担をしております。級によって金額が違いますが、年に1回は全額
ということになっております。

○田嶋委員 じゃ、生徒は払わなくてもいいということですか。

○教育指導課長 そういうことになります。

○田嶋委員 アジアのほかの国に対しても理解してもらうような授業を増やしていきたいと。具体
的にどの国を想定しているのでしょうか。

○教育総務課長 学識経験者の方の意見については、私のほうも分析させていただいています。先
ほど委員のほうから出たように、文京区の英語教育については、公教育としては非常に水準が高い
ということで、学識経験者の方の評価も非常に高いし、驚きを持って迎えられている、そういった
感想も聞かれるところでございます。そのときの文脈で言いますと、欲を言えば、英語教育をこれ
だけ推進している文京区であるので、今後の検討課題として、そういった視点も持ったらどうかと
いうことでございますので、それはそれとして、今後の検討課題としてご指摘を私どもも受けとめ
させていただいているところでございます。

○田嶋委員 それでは、具体的な国が挙がっているわけではないということですか。

○教育指導課長 英語教育を中心にとというのは、特に言葉の面だと思いますが、オリ・パラ教育の
中で、学校ごとに担当の国が5カ国決まっておりますので、文化等の面で学習をしたり、それぞ
れの学校で、例えば大使館との交流であるとか、児童・生徒で、そういった国とのかかわりがあるお
子さんが在籍しているということもありますので、そういった関係を生かしながら、それぞれの学
校が進めているというところでございます。

○坪井委員 先ほど清水委員がおっしゃった実績値の評価の問題です。私自身も素人で、ごくごく
最近、私たちの仕事のほうにそういうことが求められて、あたふたしているところでもあります。
いろいろな予算をつけていく、あるいは助成をしていくときに、最初に指標値を出せと。指
標値を出し、1年なり2年なりの指標のうちのどれだけが実績になったかということきちっと出
すという形で、計画を立てる、そういう計画の立て方を要求されています。

例えば、児童・生徒の延べ数、何人を目的とするか、実績できたのが何人であったのかと、数値で見えるようにせよという東京都の要請です。私の分野は児童福祉なので、すごい苦勞なんです。だけど、言われてみると、そういった計画をするときに、何らかの数値目標をきちっと立てることにより、それをちゃんと目指し、そして実績がどうであったかということを見えるようにするのは、計画を立てる側、あるいはやるに当たっても、確かに大きな動機づけにはなるなと感じています。実績値として出てくるのは、清水委員おっしゃったように、何%達成されているとか、わからないんですね。

今、そういう形で評価基準を出す専門集団がたくさんあるようですが、そういったことを少し考えていただくというのは意味のあることじゃないかなと思いました。教育の部分は数値化が本当に難しいのはわかっているんです。であっても、抽象的な表現で数字だけ出してそれでいいかということより、本当は大事なのもかもしれない。そうせよとは言いませんけれども、ひとつ考えていただくきっかけにはなるのかなと思います。

○教育総務課長 委員おっしゃっていることはまさにそのとおりだと思います。我々がやっている教育委員会だけではなくて、区長部局で行っている予算編成過程の中、あるいは先ほど清水職務代理のところでもお話ししたとおり、いわゆる事務事業評価というものについては、そういったところを意識したシートのつくりになっているし、また例えば3カ年の実績を踏まえた上で指標を立ててやっているの、そちらのほうではやれているところです。

ただ、このところは、点検・評価という形でやっているの、このフォーマット上で出てこない。そこは我々としても研究課題として何らかの形で考えていかなくちゃいけないと思います。来年とかではなくて将来的に、考え方としては、予算編成過程の中でやっている事務事業評価的なものをこれにかえてやるということのほうが、私のアイデアなので、それをやるということではありませんが、今、清水先生、坪井先生がおっしゃったようなところは見えやすいのかなという感想は持たせていただきました。

実際、予算をつくる過程の中、あるいは決算を出す段階の中では事務事業評価等々で、今ご指摘があったところについてはやっております。

○佐藤教育長 区の中でもいろんな形で事務事業を評価する仕組みがありますが、幾つも幾つも評価の指標があってもややこしいでしょうし、同じような形で、実績も含めて、成果も含めて見やすいものにできるのであれば、それはありがたいですね。そこはちょっと今後の工夫、1つの宿題ということで検討してみてください。

○清水委員 年度比が、昨年度はどうであったのか、そういうところから予算も立つんだと思います。

○佐藤教育長 ほかのいろいろな計画でも、それぞれが抱える事業をそれぞれに評価をすることはやっていますが、おっしゃるように、前年度と比べたり、あるいは目標としていたものと比べたりという目線が加わると、より確認しやすいですものね。そこは、今いただいたご指摘も含めて。

ほかにいかがでしょうか。せつかくの機会ですから、何かあれば。よろしいですか。

それでは、お諮り申し上げます。ただいまの件につきまして、提案理由のとおり認めてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○佐藤教育長 それでは、そのように決定させていただきます。

第2 報告事項

(1) 叙勲等表彰受章(賞)者について

○佐藤教育長 続きまして、報告事項に入らせていただきます。

報告事項(1)「叙勲等表彰受章(賞)者について」、説明をお願いします。

○教育総務課長 資料第1号、叙勲等表彰受章(賞)者一覧表をご覧ください。こちらにつきましては、平成30年の叙勲等について、一覧にまとめたものでございます。これは毎年この時期にこういった形で、受章(賞)者の一覧についてお示しをしているところでございます。上段のところの各小学校の元校長先生とか学校医の先生等々、こういった形で受章(賞)をされた皆様方でございます。受章(賞)者については、こちらをご覧くださいと思います。

説明については以上でございます。

○佐藤教育長 ただいまの件につきまして、何か確認しておきたいこと等ございますでしょうか。特によろしいですか。

それでは、報告を了承とさせていただきます。受章(賞)の方々にはまことにおめでとうございました。

(2) 文京区立図書館改修等に伴う機能向上検討委員会の設置について

○佐藤教育長 それでは次の資料第2号をご覧ください。報告事項(2)「文京区立図書館改修等に伴う機能向上検討委員会の設置について」でございます。説明をお願いします。

○真砂中央図書館長 資料第2号に基づきまして、文京区立図書館改修等に伴う機能向上検討委員会の設置について、ご報告をさせていただきます。

現在の文京区立図書館は、直営の真砂中央図書館、指定管理者が運営する地区館、合わせまして8つの図書館と2つの図書室合計10施設で運営をしているところでございます。しかし、地区館で築後40年以上経過した施設がとて多くなっておりまして、その対応が喫緊の課題となっているところでございます。

特に対応が迫られておりますのが小石川図書館でございまして、こちらは中央館に次ぐ規模で、貸し出し数は区内第1位の図書館でございまして、築後52年が経過しているところで、非常に老朽化が進んでおります。また、エレベーターの設置が構造上できないなど、バリアフリーの対応もできないというところがございます、改築を検討していく必要がございます。

また、この小石川以外の図書館、例えば本駒込図書館は44年、水道端図書館が40年など非常に老朽化が進んでいるため、これらの老朽化への対応を検討していくという問題がございます。

また、改修、改築に合わせて、文京区立図書館の今後の運営のサービスの内容につきまして、さらなる機能向上を図っていく必要があると考えております。

より多くの人に日常的に使用していただいて、満足度を高めていくという視点から、最近進んでおりますICT技術の導入とか、利用者から求められている地域の情報拠点としての性格をさらに強めていくための検討を進めていきたいと考えております。

検討事項といたしましては、2にございますとおり、改修等に伴う機能向上に関する事、小石川図書館の改築に関する事、その他の図書館の改修等に関する事でございます。

3の委員会の構成でございまして、委員長と委員に、学識経験者の方2名、区内に所在する大学などから委員になってもらうということで考えてございます。このほかPTA連合会、保育園、町会、区内に出版社が多数所在しておりますのでその関係者、区報や図書館のポスターで公募の区民の方を募集していく予定でございまして。

また、事務局の幹事といたしましては、教育局以外も、区民関係の区民課長、生涯学習部門のアカデミー推進課、また運営を担っている指定管理者のそれぞれのグループからも代表者を出すということでございます。

最後に4、スケジュールでございまして、30年度内に3月をめどに学識経験者と事前の論点整理を目的といたしまして、事前の準備会の開催を予定しております。31年度以降に検討に入りまして、31年度に中間報告、32年度には最終報告として今後の方向性を確認したいと考えております。

ご報告は以上でございます。

○佐藤教育長 説明は終わりました。ただいまの説明につきまして、ご質問等ございましたら、お願いいたします。

○清水委員 出版関係者というのはどのように選択されるのでしょうか。

○真砂中央図書館長 日ごろから、これまで関係がある出版社の方の中からお願いしたいと考えております。例えば5年前にサービス向上検討委員会という委員会を設置していましたが、その際には児童書を中心に扱っております福音館書店の方にお願いをしております。今回はこれから検討していきたいと考えております。

○坪井委員 図書館の利用者層としてすごく目立っているのが、小さい子どもさんを連れてお母さんたちで、幼児書というものを充実させたいという希望もあるでしょうし、最近では定年退職をされた男性がとてまたくさん図書館を利用されているなど感じています。図書館を利用する目的、年齢層もいろいろあると思います。この年齢区分で多数の利用者がいるところの代表者がちゃんと入っていらっしゃるのかなということを確認したいと思います。

それから、最近テレビの報道でも、出版物に対する関心の低下で悩みながら図書館経営を工夫されている地域をいろいろ紹介しています。もちろんITの問題もあるでしょうし、スペースを若者向けにつくっていたり、喫茶店と一緒にしてみたりとか、いろんな工夫をして図書館を新しくつくっていくということがある。そういった各地域で工夫された図書館の情報をどこかで集約されて、文京区も考えていただけたらいいなと思います。

○真砂中央図書館長 1点目の各世代のご意見をというところでございますが、こちらにございますPTAの関係者、保護者代表は、お子さんをお持ちの親御さんの世代ということになります。子育ての世代プラス自分たちのお子さんの観点からのご意見をいただければと考えております。町会代表の方は、具体的にはこれから決定いたしますけれども、地域の町会の関係でということで、恐らく高齢者の方になるのかなと考えております。公募区民に関しましては、そういった特定の世代ということではございませんけれども、一定程度、区立図書館に関するご意見を出していただいて、その内容を見ながら決めたいと考えております。

2点目の図書館経営の部分は、委員ご指摘のとおり、課題のほうは非常に多くございます。情報収集といたしましては、最近23区内でもかなり新しい図書館はできておりますし、各担当者の部会がございまして、実際に会議に行く際に、そういったところの現場を見学させていただいたりしております。最近ですと、品川区の大崎の図書館、武蔵野市の吉祥寺の図書館といったところが今

年度中オープンいたしましたので、それぞれ各職員が直接情報収集をしているところがございます。

指定管理者は、文京区だけではなくて、ほかの自治体等でも運営しているところがございますので、我々公務員だけではなく、民間の知恵も借りながら検討を進めていければと考えております。

○佐藤教育長 そのほか、特に確認しておきたいことがございますか。よろしいですか。

それでは、ただいまの報告は了承とさせていただきます。

きょう用意した案件は以上でございます。

第3 その他の事項

○佐藤教育長 その他ですが、こちらでは特にご用意はないんですが、何かございますか。特によろしいですか。

それでは、第1回の定例会はこれをもって終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(14 : 37)

平成 31 年 1 月 15 日

議事録署名人

教育長

委員